

がん腫	消化器癌 胃癌					
レジメン	weekly PTX					
レジメン内容	用量	点滴時間	Day1	8	15	
	PTX	80mg/m ²	60分	↑	↑	↑
1クールの間	4週間					

Day1, 8, 15

- 《新規》注射 未実施 消化器 医師名なし

 - Rp01 2017/07/25 ~ 2017/07/25 毎日- (1)

 - メイン点滴 末梢①
 - 点滴(メイン、自然滴下)
 - ルートキープ
 - 大塚糖液 5%250ml 1 本
 - Rp02 2017/07/25 ~ 2017/07/25 毎日- (1)

 - 側管点滴 末梢①
 - 点滴(側管、自然滴下)
 - 15分かけて注入
 - フィルタールート使用
 - 生食 50ml 1 本
 - デキサート注射液6.6mg 2mL 6.6 mg
 - ポララミン注5mg 1mL 1 A
 - ファモチジン静注20mg「日新」1管=20mL 1 A
 - Rp03 2017/07/25 ~ 2017/07/25 毎日- (1)

 - 側管点滴 末梢①
 - 点滴(側管、自然滴下)
 - 30分かけて注入
 - 生食 50ml 1 本
 - Rp04 2017/07/25 ~ 2017/07/25 毎日- (1)

 - 側管点滴 末梢①
 - 点滴(側管、自然滴下)
 - 60分かけて注入
 - 血管外漏出注意!
 - パクリタキセル注100mg/18.7ml「NK」★ 1 mg
 - パクリタキセル注30mg/5ml「NK」★ 1 mg
 - 大塚糖液 5%250ml 1 本

レジメンについて

PTX 毎週投与は3週間毎の投与と効果は同等ながら毒性はより低い。
 切除不能・進行再発胃癌 45例を対象としたランダム化第II相試験では PR 16%、PFS 2.6ヶ月、MST 7.8ヶ月であった。

主なエビデンス Anticancer Res 27 : 2667 - 2771 , 2007

減量・開始基準 Grade4の血液毒性またはGrade3以上の非血液毒性が確認された場合には、次コースから1段階減量(80mg/m² → 70mg/m² or 70ng/m² → 60mg/m²)。減量は60mg/m²まで。減量後も前コース時と同様の副作用が確認された場合には投与を延期。

主な副作用(%) ✓ 好中球減少(40%)、貧血(26%)、食思不振(30%)、悪心(11%)、下痢(4%)

- 当院レジメンについて
- ✓ PTX の前投薬は、化学療法委員会にて院内で統一するよう検討した。
 - ✓ 前投薬については、添付文書上、過敏症予防としては Dexamethasone として 8mg を使用することとなっているが、Dexamethasone は 6.6mg とすることとなった。前投薬終了後より、パクリタキセル開始までの間に 30 分間の時間を設けることについても、委員会にて確認済み。催吐性リスクは LEC であり、dexamethasone 6.6mg の投与が推奨される。
(添付文書記載)

2) B法、C法、D法及びE法

- ① 本剤投与約30分前までに投与を終了するように、デキサメタゾンリン酸エステルナトリウム注射液(デキサメタゾンとして8mg)及びラニチジン塩酸塩注射液(ラニチジンとして50mg)又は注射用ファモチジン(ファモチジンとして20mg)を静脈内投与、ジフェンヒドラミン塩酸塩錠(ジフェンヒドラミン塩酸塩として50mg)を経口投与すること。
- ② デキサメタゾンは初回投与時8mgとし、次回投与時まで過敏症状の発現がみられなかった場合又は臨床上特に問題のない過敏症状の場合は、2週目の投与より半量(4mg)に減量し投与してもよい。以降の投与週においても同様の場合、半量ずつ最低1mgまで減量し投与してもよい。

- 患者への注意事項
- ✓ アルコール過敏の有無について確認：PTX は添加物(溶剤)として無水エタノールを含有するため。外来での化学療法施行中の患者には車の運転等危険を伴う機械の操作に従事させない。
 - ✓ PTX と溶解補助剤のポリオキシエチレンヒマシ油による過敏症およびショック発現に注意する。
 - ✓ 末梢神経毒性が強く発現する場合、重症化する前に PTX を減量、休薬し回復を待つか、他剤への変更について検討するのが望ましい。施設によっては Grade2 以上の神経毒性では減量を考慮し、Grade3 以上から改善しない症例では PTX の休薬を検討している(岩手医科大学医学部など)

- 参考資料
- ✓ がん薬物療法ガイド レジメン+薬剤情報
編集 国立がん研究センター 内科レジデント・薬剤部レジデント (医学書院)
 - ✓ エビデンスに基づいた癌化学療法ハンドブック 2017
編集 国立がん研究センター東病院 病院長 大津 敦 (メディカルビュー社)